

法人理念	専門職による療育を行うとともに、親支援や地域支援も大事に捉え、子どもたちが地域の中で安心できる生活を送っていくことを大事に考える。専門職養成支援も大事にして、学生や地域の方々への研修や実習への協力を行っていく。
営業時間	通常プログラム 午前幼児（10 時～12 時） 長期休み中の特別プログラム 幼児～10 時から 12 時、個別支援や個別相談の場合はその他の時間でも設定可能
支援方針	児童 1 人 1 人に、個別に担当者がついて専門的な支援を行っていく。個別支援を中心としながらも集団活動も大事にしていく。 幼児は全員年 1 回の発達検査を行って、分野別の発達の様子を捉えて家族に助言し、支援計画を立てる。入園の相談の時間を設けたり、幼稚園や保育園入園後も園と連携を行い、小学校入学への道筋を考えて助言していく。学習指導や集団活動も行っていく中で、制度や病院を紹介したり、医療との連携も図っていく。

支援内容

本人支援 ・支援内容	総合的な支援	幼児は、各年度当初の個別支援計画作成時に、各分野ごとの発達資料と発達検査を作成し家族に説明。病院や他の支援に繋いだり、園との連携を行う。
	健康・生活	体温測定や体調を聞くことにより体調の変化を家族と一緒に考えていく。前向きな生活のための視覚や聴覚を考えたプログラム提示。
	運動・感覚	サーキットやリズム遊びでの粗大運動と、手指の作業療法としての微細運動。 お散歩や公園遊びを通して、広い視野で見えていくこととともに、危険への対処も学ぶ。
	認知・行動	プログラムカードの提示や、ピアノの曲の違いによる構造化。1 人 1 人に合わせた個別課題プログラムの作成と実施。 発達検査や、項目別の発達評価表を作成し家族に説明。
	言語・コミュニケーション	グループ活動でのお当番や遊びなどでの役割を経験。担当者がコミュニケーションの言葉や方法を助言し、やってみよう進めていく。
	人間関係・社会性	グループ活動での楽しさを社会性に繋げて行く集団課題実行。園訪問を通して、児童の園での様子を観て、園の先生たちと連携した支援を話し合う。各家庭からの相談にも応じている。
事業所プログラム	（通常の幼児クラス） 自由遊び→片付け→個別課題（個別の発達支援）→あいさつ・歌→おやつ→集団タイム（グループでの運動や遊び） →絵本読み聞かせ等→お支度→帰りの会 （長期休みの特別プログラム）制作や運動などを中心に、楽しい中で各分野の発達や協調性を学んでいかれるよう設定。 例として「運動あそび・サーキット」、「公園遊び・お散歩」、「お絵描きや製作」、「音楽遊び・リトミック」	
家族支援	個別相談・参観懇談会・親たちの学習会を適宜行う。児童の通っている保育園・幼稚園へ児童の様子を見に行き、先生と懇談、入学予定の学校への資料提出や懇談も可能。障がいごとの親の会を紹介。	
研修会・交流会	支援者に対しては、発達について、関係する法律について、大きくなっていったときの教育や支援について等、研修会を行っている。関係の施設にも呼びかけて行っている。大学や専門学校の学生にも参加を呼びかけており、社会福祉・教育・心理を学ぶ現場として機能している。	
地域との交流・地域支援・地域連携	町内会や商店街との交流、民生委員・児童委員・保護士等地域を見守っている方々との交流や学習会、社会福祉協議会の中での活動や研修の実施や講師としての参加、障害者の法人などとも連携 保育園・幼稚園、小学校、中学校、支援学校などとの交流、相談室と一緒に地域を考えている。 企業の支援により全てのグループでクリスマス会を行っており、幼児の全グループにはクリスマスケーキを持ってサンタさんも来訪。	

	いただいたプレゼントやクリスマスカードへの「ありがとう」のお返事を書き、応援してくれる人たちとの心の交流を図る。 地域の福祉団体や、消防所や警察署への訪問を通して社会のルールや地域の仕組みを伝えていく。 個別に必要な場合も、連携を考えていく。
主な行事	長期休み（夏休み・冬休み・春休み）の特別プログラム、クリスマス会、ハロウィン、等

法人理念	専門職による療育を行うとともに、親支援や地域支援も大切に捉え、子どもたちが地域の中で安心できる生活を送っていくことを大事に考える。専門職養成支援も大事にして、学生や地域の方々への研修や実習への協力を行っていく。	
営業時間	通常のプログラム 学童：平日 15 時～17 時、平日 16 時～18 時、 土曜 10 時～12 時 その他～長期休み中の特別プログラム（学童：13 時 30 分～15 時 30 分）、その他 個別支援の時間も設定可能	送迎～無
支援方針	児童 1 人 1 人に、個別に担当者がついて専門的な支援を行っていく。個別の学習指導や集団活動も行っていく中で、支援計画を立て、教育現場や医療との連携も図っていく。学習状況や学校の支援方法を考えながらも、次の学校を考える相談にも対応し、受験勉強や入試のアドバイスも行う。入学後も病院を紹介したり等、医療との連携も図っていく。	

支援内容

本人支援 ・支援内容	総合的な支援	各年度当初の個別支援計画作成時に、領域ごとに考えた支援計画を作成し家族に説明。要望に応じて病院や他の支援に繋ぐ。次の学校や働く場へも繋ぐとともに、連携も行う。
	健康・生活	体温測定や体調を聞くことにより自己管理を学ぶ。前向きな生活のための視覚や聴覚を考えたプログラム提示。
	運動・感覚	個別の学習タイムでの作業課題や、縄跳びなどの運動支援も可能。手指の訓練や全身運動も行っていく。
	認知・行動	プログラムカードの提示や、色の違いによる各部屋の意味を示すなど構造化。1 人 1 人に会わせた個別課題プログラムの作成と実施。 教科ごとの苦手や得意を把握し、将来を見据えた学習に繋いでいく。
	言語・コミュニケーション	グループ活動でのお当番や遊びなどで役割を経験し、集団のルールを学ぶ。担当者がコミュニケーションの言葉や方法を助言し、やってみよう勧めていく。
	人間関係・社会性	グループ活動での楽しさを社会性に繋げて行く集団課題を実行。各児童からの相談にも応じている。
事業所プログラム	（学童クラス） 自由遊び→片付け→学習タイム（個別の学習支援）→あいさつ→おやつ→集団タイム（グループ活動）→帰りの支度 →帰りの会 （長期休みのプロジェクト） 社会見学、運動、ソーシャルスキルトレーニング、科学実験、工作や絵画、等	
家族支援	個別相談・参観懇談会・親たちの学習会を適宜行う。児童の通っている学校などで先生達と懇談、相談室と共に制度の中の個別支援を考える。	
研修会・交流会	支援者に対しては、発達について、関係する法律について、大きくなっていったときの教育や支援について等、研修会を行っている。関係の施設にも呼びかけたり、大学や専門学校の学生にも参加を誘っており、社会福祉・教育・心理を学ぶ現場として機能している。	
地域との交流・地域支援・地域連携	町内会や商店街との交流、民生委員・児童委員・保護士等の地域を見守っている方々との交流や学習会、社会福祉協議会の中での活動や研修会への講師としての参加、障害者の法人などとも連携 保育園・幼稚園、小学校、中学校、支援学校などとの交流、相談室と一緒に地域を考えていく 企業の支援により全てのグループでクリスマス会を行っており、いただいたプレゼントとクリスマスカードへのお礼の返事を書く	
移行支援	上の学校への入学や、社会人となる場合に向けて～体制を考えたソーシャルスキルや学習への支援、家族への説明や連携についても説明 卒業の児童についても、今後の相談先を伝えたり、親の会や本人支援の会を伝える。	
主な行事	長期休み（夏休み・冬休み・春休み）の特別プログラム、クリスマス会、ハロウィン 等	